

平成30年 市民公開講座 “がん”について考える もっと知って欲しい“緩和ケア” アンケート回答

市民公開講座、ご聴講いただきありがとうございました。
アンケートにご記入いただきました、質問に回答させていただきます。
また、ご記名のあった方には、郵送にて直接回答させていただいておりますので、ご了承下さい。

今後も、皆様に様々な情報提供ができますように、市民公開講座を開催してまいります。ご聴講お願いいたします。

* 当日のDVDが本館1階のからだの図書室にて、閲覧できますので、ご興味のある方は、是非ご覧下さい。

質問と回答

①現状、娘の次女ががん病っております。正直近々遠隔地のため訪問する予定ですが、どのように接していいのか、迷っております。現在、緩和ケア療養中。対話困難です。

→声がけが難しい時は、無理に声かけしなくても大丈夫です。側にいてくれるだけで、どこか安心できるのです。時にイライラして「放っておいて」と言われる時もあるかもしれませんが、今はそうゆう時期なんだと少し離れて見守っていただければ幸いです。

②運動や活動を始める時に、精神的にまいっている患者さんにどのように声がけや話を聞いて積極性を出せるのか知りたいです。

→見守っていくうちにひとつひとつ足がかりがなことを話し出してくれたら、まずは一緒に共感することが必要だと思います。それをくり返すことで「運動しよう」などの意欲につながってくると思います。①の回答も参考にさせていただけるといいかと思います。

③リハビリの中で紹介されていた、嚥下機能低下したかたでも食べやすい「もち」の食べ方を知りたいです(詳しく)

→スライドでお示したかたは病気の影響で咽頭の通過障害がありましたが評価の結果、通りやすい側があり、そちらから、飲み込むようにしていました。もちは、咽頭に付着しないように一口サイズを5mm～1cmにカットして、咀嚼を促してから飲むように摂取していました。但し、この方法はすべての方に適応となるわけではないことをご承知おき下さい。

→リハビリの嚥下担当者が評価を行い、患者さんに一番いい方法で対応しております。この方法が皆様に適応になるわけではありません。もし、お困りのことがあれば、リハビリテーション科に受診できるよう主治医にご相談下さい。

④地域医療：福祉の現場で病院の役割の限界はどこか？病院は治療できても機能低下は免れないと思います。維持・改善に向けてどう考えているのか？今後どうしていくつもりか？患者が病院や医師を選ばなければいけない現実に憤りを感じます。

→貴重なご意見ありがとうございます。医療資源(マンパワー含む)の少ないこの地域で、他院、他施設と医療・福祉の連携協力体制を整備しながら、診療にあたらせて頂いております。ご不便をおかけすることもあるかと存じますが、ご理解いただけますと幸いです。

以 上